

科学研究費助成事業（基盤研究（S））事後評価

課題番号	18H05282	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	神経・免疫・代謝におけるガイド ンス因子の病的意義の解明とその 制御	研究代表者 (所属・職) (令和5年3月現在)	熊ノ郷 淳 (大阪大学・大学院医学系研究 科・教授)

【令和5(2023)年度 事後評価結果】

評価		評価基準
	A+	期待以上の成果があった
○	A	期待どおりの成果があった
	A-	一部十分ではなかったが、概ね期待どおりの成果があった
	B	十分ではなかったが一応の成果があった
	C	期待された成果が上がらなかった
<p>(研究の概要)</p> <p>本研究は、セマフォリン関連分子に焦点をあてて神経免疫代謝の相互関連の分子機構の解明を目指すものである。</p>		
<p>(意見等)</p> <p>神経免疫代謝を司る制御分子による免疫・炎症細胞活性化・分化制御の解明、及びセマフォリン関連分子の発現異常の疾患病態への関与の解明とその制御について多くの成果を上げ、当初の目標を達成した。具体的には、多発性硬化症、SLE、好酸球性副鼻腔炎、肥満などの病態へのセマフォリンの関与を示し、そのメカニズムの一部を明らかにした。さらに、がん免疫療法やがん分子標的薬の治療効果改善につながる発見もあり、分野の進展に貢献したと評価できる。</p>		